

～日中活動～



わたしたちが作りました



# 六方

542

2015 11月号  
編集  
社会福祉法人六方学園  
〒739-0036 東広島市  
西条町川口3-9-3  
Tel (082)425-1015  
Fax (082)425-2660  
<HP>  
[www.roppo-gakuen.com](http://www.roppo-gakuen.com)

## 福来朗

無心に働らく姿に 光をあてる

▲広島出身の映画監督であった新藤兼人さん、二度お会いしたことがある。昭和三十五年の作品「裸の島」は瀬戸内海の水のない孤島に、近くの島から伝馬舟で夫妻が水を運び続ける全編セリフのない映像で。裸の山に苗木を植え育てようとするが水をかけても砂地に消える。この報われない事に無心になって働く姿こそ尊いのだと作品を通して問いかけた。▲この時代背景をもつ昭和二十年末の学園も、百名余りの園児をかかえ物も乏しい生活を生きぬくためには、皆で力を合わせ支えていた。その無心で働らく園児たち、日焼けし汗にまみれた顔は自信に満ちていた。平素の日常生活や学習活動の外に「児童の特別当番制」によって、年齢、性別、体力などに応じて役割が組まれていた。▲当時どんな当番があったのか記録にそって紹介してみたい。先ず・日直当番から・食堂・事務室・薪・学園風呂・ボタンコ・炊事・散紙・下肥・下駄・装飾・整理・園外手伝い・幼児保育世話・その他の臨時当番などが。それに加え、年長組には特別な仕事があった。▲米国から送られたホルスタイン乳用種の牛三頭に、山羊や鶏などの飼育に。園外では片道約五キロにある約二千坪を無償で借用していた国有林の黒谷山まで、山道を肥や水を運んでいた。山では伐採、開墾、植栽を、帰路は大八車に木を積み上げ下り、時には夕暮になる日もあった。共に力を合わせ一生懸命に生きぬいた当時の園児たちの姿に光をあて、労に感謝したい。

(記・園長)